

いわみの

(益高だより)

令和3年度9月号

令和3年9月21日

(第153号)

島根県立益田高等学校

110周年記念式典

文化祭1日目の9月2日、グラントワ大ホールにて創立110周年記念式典を挙行了しました。コロナ禍の中、参加者を制限しての開催となりました。式典は物故者への黙禱に始まり、校長式辞のあと、村木繁実行委員長（同窓会長）、野津建二教育長よりご挨拶をいただき、島根県議会議長・田中八洲男様より祝辞を賜りました。最後は生徒会長・牛山雄心さん（2-4）の挨拶のあと、全員で校歌を聴いて終了しました。なお、式典前の沿革史スライドショーの披露は伏谷優佑さん（2-2）と榊原龍佳さん（2-3）、式典進行は島田郁子さん（2-1）と志田原葉奈さん（2-1）が務めました。

当日、記念品として、記念ロゴ入りマスク、生徒がデザインしたラベルを貼った「ゆずっこ」などを、記念ロゴ入りエコバッグに入れて参加者に配布しました。



記念講演

「自立思考で未来を拓け」 尾庭靖男氏（I・NEST 有限会社代表取締役・本校OB）

30数年前に益田高校を卒業後、大学進学を経て、いくつかの会社勤めを経て、現在は関西地域で複数の会社を経営されておられます。

良い大学＝良い会社＝良い人生を思い描いて就職したけれども、人間関係や仕事内容に対するストレスにより、理想と現実のギャップに苦しんだこと、狭い視野でしか世間を見ていなかったことなどの体験を語られました。特に強調されたのは、【人生どん底と感じた時にこそ真価が問われる、自分が試されるのだと。そこで、大事なことは、あきらめずに挑戦し続けることだと。本当の失敗とは、挑戦を辞めてしまう事】だと。

益高生に対しては、自分が向かっていく人生に対して、選択肢を多く持ち、やりたいことには積極的にどんどん挑戦していくべきだと。また、基礎的な知識やスキルは絶対に必要になるから、文系・理系に関わらず学習にも手を抜かず取り組んでおいた方が後々にそれが活かされる事などを話されました。

【天職】ということについて、自分が好きなこと・やりたいことが大前提で、次に得意なこと・出来ること、最後はその仕事を通じて人を喜ばせたり、感動を与えることが出来るかどうか重要であるということも話されました。

最後は、ご自分で編集された動画を使って、過去に活躍された人々の言葉の中に、人生を歩むにあたっての多くのヒントがあるので、ぜひ多くの書物に出会ってほしいと話されました。予定していた時間を少し過ぎましたが、充実した講演会となりました。



令和3年度文化祭を終えて 生徒会担当 三成俊介

今年度も昨年度に引き続きコロナ禍における文化祭となりました。準備の段階から文化祭本番に至るまで、感染症対策の実施や入場規制、観覧方法の制限など様々な対策を実施しました。このことに保護者や地域のご理解とご協力をいただいたことに感謝するとともに、御礼申し上げます。

令和3年度前期生徒会執行部が考案した学園祭のローガンは『Stay Hungry』です。何事にも挑戦していく精神をもって取り組んでいく強い想いが込められました。

各学年の発表では、クラスで競い合いながら素晴らしい創造力・表現力を発揮しました。1年生は昨年度実施できなかった「合唱コンクール」と「企画模擬店」、2年生は体育祭から発表の場面を移した「デコレーション」と「パフォーマンス」、3年生は伝統の「演劇」、その他に各部や委員会も日頃の成果を中庭やホワイエで披露しました。

文化祭を通してクラスの中で様々なやりとりがあったことでしょう。クラス一丸となって良いものを創りあげようとするからこそ、その中でぶつかることもあったかもしれません。協力して創りあげた作品はどれも観客や聴衆の心を動かすものであったと思います。

最後になりましたが、文化祭に関わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

生徒会長 牛山 雄心

私は生徒会として主に準備などをしました。私は人と話すことが少ないので、この期間に多くの人と話せて楽しかったです。私達のクラスは賞を1つも取れませんでした。私としてはパフォーマンスで乃木坂46の曲を踊って満足でとても楽しかったです。



文化祭

演劇 (3年生) 最優秀賞 青組 (3-4) 最優秀演技者賞 佐々田 遼斗 (3-4) 黄組 (3-1) 緑組 (3-2)

私たちの演劇では LGBTQ をテーマとして、誰もが持つ当たり前を見つめ直すことの大切さや、自分らしく生きていく自由があるというメッセージを伝えることができたと感じています。一人ひとりの COLOR が重なり合っ
て色とりどりに輝いた作品になりました。



私たちは「愛」をテーマに作品を作りました。準備段階ではハッピーエンドかバッドエンドか、



会話はどのように進めていくかなど様々な問題点がありましたが、議論を重ね、本番では最高の発表をすることができました。太郎です。これから乙姫と幸せに暮らしていきます。乙姫からのメッセージは「ななお」にて。



赤組 (3-3)

私たちは不安だらけのスタートでした。しかし、理系屈指の頭脳派集団がその頭脳をフル回転させた結果、演劇というものには解が無いことが分かり、それからは自由に楽しく練習や大道具製作をして一つの作品にすることができました。本番後に輪になって乾杯したのは最高の思い出です。



青組 (3-4)

昨年の体育祭からは青春の具現化に挑戦してきました。なぜ私達が青春をこれほど求めたのか。勉強に明け暮れる我々はこの学生よりも常に青春という人生の中の輝かしい1ページを渴望してきました。青春とはまるでつかめそうでつかめない蜃気楼のよう… 作品中の若者達が目の前に立ちはだかる壁を乗り越える姿、夢を追う主人公のリョウ、友人とのぶつかり。そこには青春、そしてまだまだ青い私達高校生には作ることができない舞台があったのではないのでしょうか。観客の皆さんが作品の中に入り込めるような作品になっていたら嬉しいです。



デコレーション&パフォーマンス (2年生)

デコレーション最優秀賞 赤組 (2-1)・パフォーマンス最優秀賞 赤組 (2-1)

赤組 (2-1)

私たちは話し合いの期間が長く、その分ダンスを始めのが一番おそい組でした。ですが、ダンスになると皆一生懸命取り組んでくれて最後には優勝することができました。パネルも赤を基調とするインパクトのあるもので、パネルが飾られた時の更に高まった一体感は強く印象に残っています。



緑組 (2-3)

自分たち2年3組は「FANTASY」というテーマでした。賞こそ勝ち取ることができませんでしたが、パフォーマンスとデコの垣根を越え、全員で協力して全員で1つのものを作り上げました。練習から本番まで常に楽しく、この文化祭を通してクラスの絆がより一層強くなったと感じました。「FANTASY」のテーマにぴったりのクラスになりました。



青組 (2-2)

デコでは、効率的にメンバーを参加させるために、一人一人の能力をみて、指示することが大変でした。パフォでは、すばやい動きが多く、全員がうまくダンスをできるかどうか不安だったけど、クラスみんなで教え合い本番ではデコとパフォでどちらも優秀賞をとることができてうれしかったです。



黄組 (2-4)

パフォーマンスでは、例年とは違うステージでしたがとまどいや苦勞も笑顔で乗り越え、会場に4組の風を吹かせることができました。デコレーションでは、短い準備期間の中で、皆で協力して立派な作品を作り上げました。入賞は逃してしまいましたが、とても良い思い出になりました。



合唱&企画模擬店(1年生)

合唱コンクール最優秀賞 緑組 (1-1)

最優秀伴奏者賞 近原 希歩 (1-4)

最優秀指揮者賞 大畑 佳己 (1-3)

緑組 (1-1)

合唱コンクール最優秀賞が取れたのは、クラスの一人一人が努力をした結果だと思います。初めの練習は全体が上手くまとまらず、このままではやばいのではないかと、全体練習を増やしたり、自由曲の中で伝えたい所を考えたりと練習方法を変えました。これをきっかけにみんなが一致団結して合唱に向き合うことができました。これからも1組全員で団結して物事に取り組んでいこうと思いました。



黄組 (1-2)

1年2組は、「明日への手紙」という歌を歌いました。はじめは、どう練習したらいいかわからず、なかなか練習が進みませんでした。クラスのいろいろな人達に助けをもらい、本番では今まで練習してきた中で一番の合唱をすることができました。



赤組 (1-3)

私たち1年3組は、入賞ができず悔いの残る合唱となりましたが、みんなで最高の合唱ができたのでよかったです。練習当初は、やる気が起こらない人も多く、あまりまとまらずよい合唱ができるか不安でした。しかし、指揮者やリーダーたちが雰囲気作りをしてくれて、本番の舞台上で今まで一番の合唱ができました。



青組 (1-4)

最初から計画的に分担して進められたので、準備がスムーズに進みました。当日は雨で不安でしたが、たくさんの笑顔が見られて嬉しかったです。また、合唱コンクールでは、人数が少ない分一人一人が積極的に声を出し素敵な演奏をすることができました。4組のみんな本当におつかれさまでした!



そして多くの部活動・委員会、そして有志による展示・発表がありました。

